6/10 毛産

学校健診後の受診状況調査

健康へのコロナ影響 45%の学校であった

兵庫県保険医協会

兵庫県内の開業医でつくる兵庫県保険医協会（西山裕康理事長）は9日、県内の全小中高・特別養護学校の2020年度学校健診後の受診状況の調査結果を発表しました。

調査は17年度、18年度に続き3回目で、2月20日から3月15日に実施し、1398校中128校から回答がありました。

新型コロナ感染拡大による児童生徒の健康への影響では、45%の学校で影響があったと答え、肥満と視力低下の児童生徒の増加がそれぞれ40%でした。具体的回答に、体だけでなく心の問題もみられ、コロナ禍が早期に回復せず、以前と同様の日常生活が取り戻しにくい中、健診後の予防措置、医療機関の受診は重要性が増しているとしました。

健康診断で要受診となった児童生徒は、視力検査34%、歯科28%、耳鼻科12%、内科5%で18年度調査とほぼ同じでした。要受診のうち、未受診の児童生徒は視力61%、歯科69%、耳鼻科68%、内科57%で、未受診率が高く速やかな改善が必要としました。

虫歯が10本以上あるなど、そしゃくが困難とみられる「口腔（こうくう）崩壊」状態の子どもについては、31%の学校がいると回答し、18年度の36%からは減少しました。